

第18回 石西礁湖自然再生協議会 議事概要

日 時：平成27年1月23日（金） 14:00～16:50

場 所：石垣市健康福祉センター 検診ホール

■参加者：

委 員：35個人・団体（47名）

※個人14、団体・法人11（15名）、行政10（12名）

オブザーバー：1名

傍 聴 者：6名（記者3名含む）

事務局補助：6名

■議事次第：

1. 開会
2. 議事
 - (1) 役員を選出
 - (2) オブザーバーの承認及び規約改正について
3. 第5期参加委員の紹介
4. 発表
 - (1) 石西礁湖の現状について
 - (2) 島嶼－サンゴ礁－外洋総合ネットワーク系動態解明に基づく石西礁湖自然再生への貢献（環境研究総合推進費プロジェクト）
 - (3) 石西礁湖周辺海域における水温の長期変動
 - (4) サンゴ礁魚類とサンゴの関係について
5. 報告
 - (1) 部会、ワーキンググループからの報告
 - ①生活・利用に関する検討部会
 - ②学術調査ワーキンググループ
 - ③海域対策ワーキンググループ
 - ④その他
 - (2) 特定非営利活動法人石西礁湖サンゴ礁基金の活動－まとめと今後の課題－
6. その他
7. 閉会

■概要：

1. 開会

2. 議事

(1) 役員を選出

第5期協議会の会長に土屋委員、会長代理に吉田委員が選出された。

(2) オブザーバーの承認及び規約改正について

気象庁沖縄気象台の永井氏がオブザーバーとしての参加を希望し、承認された。

事務局の組織名称変更にもなう石西礁湖自然再生協議会規約の記載変更について了承された。

<該当箇所>

第6章 運営事務局 第14条の2

<変更内容>

旧) 内閣府沖縄総合事務局開発建設部港湾計画課

新) 内閣府沖縄総合事務局開発建設部港湾空港技術対策官

3. 第5期委員の紹介

いであ株式会社沖縄支社が新たに団体として参加する。

議事次第3ページに計114の個人・団体が載っているが、本日はそのうちオブザーバーを含めて34の個人・団体が参加いただいている。

4. 発表

(1) 石西礁湖の現状について

- ・回復傾向にある地点が結構あるが、再生事業の結果であるという根拠がない。どのように確認していけばよいのかを考えなければならない。
- ・環境省が主体となっていくつかの報告書がとりまとめられているが、それぞれの報告書で共通されている現象をすべて眺めてみて、総合的にそれらの調査結果を考察し、これからの再生事業に生かす必要がある。

(2) 島嶼－サンゴ礁－外洋総合ネットワーク系動態解明に基づく石西礁湖自然再生への貢献 (環境研究総合推進費プロジェクト)

- ・複数のモデルを組み合わせ、総合モデルシステムを開発している。
- ・遺伝子解析を用いて幼生分散を調べた。幼生分散の障壁で区分された海域ユニットごとに

保全対策を考えるべきであり、重点海域を特定していくうえで活用できる。

- ・石西礁湖は幼生加入量が少ない。ネットワーク全体からの供給過程をみななければいけない。どの辺りを重点的に回復させれば良いかを見定め、ネットワーク全体の再生につなげたい。

(3) 石西礁湖周辺海域における周辺の長期変動

- ・長期変動は先島では+0.73℃/100年で有意な上昇傾向となっている。
- ・石垣の気温と石西礁湖の海面水温は相関が高く、石垣の気温が長期的に上昇しているため、石西礁湖の海面水温も上昇していると考えられる。
- ・石西礁湖の海面水温は1998年の8月下旬、2007年の7月下旬、8月上旬に31℃近くなり、非常に高い状況であった。

(4) サンゴ礁魚類とサンゴの関係について

- ・きれいな魚であるスズメダイの高い種多様性を維持するためには、様々なサンゴの種類・海域をバランスよく再生・保全することが必要である。
- ・食用となる魚であるナミハタは、稚魚はブラシ状のミドリイシ、成魚は枝状ミドリイシに根付くので、資源管理の面から言うとこのようなサンゴを保全する必要がある。
- ・ナミハタは産卵集群をつくる場所と普段の生息場との行き来をしている。通り道を含めた産卵場近海の自然再生ができれば、漁業者の資源管理の取り組みが活かされる。また、過去に枝上サンゴの大群落があった箇所の再生も必要である。

5. 報告

(1) 部会及び各ワーキンググループからの報告

①生活・利用に関する検討部会

- ・石西礁湖の保全や利用に関するルールや取り組みを平面的に把握するために、石西礁湖ルールマップを作成している。
- ・竹富南航路の浚渫は濁りを外に出さないように実施している。
- ・事前に浚渫予定箇所のサンゴについて移設を行った後に、工事を開始している。

②学術調査ワーキンググループ

- ・環境省事業の報告、計画について、議論している。内容はモニタリング関係、陸域対策の関係、普及啓発関係、評価手法の確立といった話題に分けられる。
- ・サンゴ移植事業で蓄積した技術を、生育環境を把握するための生物的センサーとして用いたかどうかという提案をしている。
- ・自然分解型コーラルネットの紹介があった。

③海域対策ワーキンググループ

- ・オニヒトデ対策小グループにおいて環境省、沖縄県自然保護・緑化推進課、石垣市水産課並びに環境課が集まり、駆除の計画、報告等、情報共有を行っている。
- ・平成 25 年度、26 年度の駆除状況について説明があった。

④その他

- ・普及啓発ワーキンググループ、陸域対策ワーキンググループについては今年度開催できなかった。次年度以降は継続的に開催していきたい。

(2) 特定非営利活動法人石西礁湖サンゴ礁基金の活動—まとめと今後の課題—

- ・NPO 法人を設立したことで、協議会メンバー以外の活動参加者が出てきたことは、大きな効果といえる。
- ・オニヒトデ対策、地域イベントでの広報活動、環境教育などを行った。
- ・今後は会員・寄付の拡大、企業への支援要請などを考えている。

6. その他

事務局から 2 点連絡があった。

- ・平成 26 年 9 月に国際サンゴ礁研究・モニタリングセンターのホームページを運用するサーバ上の他システムがサイバー攻撃を受け、ホームページの運用を停止させている。
- ・短期目標まで 3 年となったことから、協議会の取組を振返る時期にきている。

最後に、その他の項目として、委員からの発言の場が設けられた。

- ・3 年間わくわくサンゴ石垣島プロジェクトの活動を行ってきたが、この度、新たな団体、わくわくサンゴ石垣島を発足した（わくわくサンゴ石垣島）。
- ・今回の協議会の資料や議事録などはウェブサイトで閲覧可能か（いであ株式会社沖縄支社）。
→協議会専用の石西礁湖ポータルウェブサイトで引き続き公開予定である（事務局）。
- ・第 17 回協議会で石垣市水産課がサンゴ移植事業を行う旨の報告があったが、経過報告などはされているか（いであ株式会社沖縄支社）。
→確認でき次第共有させていただく。
- ・第 17 回協議会でダイビング業者のアンカーブイの設置に関して議論できる仕組みづくりをしてほしいといった意見があったが、どうなっているか（いであ株式会社沖縄支社）。
→必要性も含めてワーキング等で検討していきたい（事務局）。

7. 閉会